

## 過去の自分と比較してみよう

どの学年も先日の実力テストが返ってきたようです。今朝一人一人に解答用紙と成績票を配付した学級があり、朝の会がいつもと違う雰囲気で、大変盛り上がった（？）ところがあったようです。自分の結果をひっそりと見ている生徒、周りの生徒の点数が気になってきよろきよろしている生徒、互いに票を見せ合っている生徒などさまざまでした。

以前も書きましたが、校内で行う実力テストは練習試合ですからね。「やりっ放し」が最もいけません。「やりっ放し」なら、やらない方がよいかもしれません。今の自分の力を冷静に受け止め、これから力をつけるためにどのような勉強に取り組めばよいのかを分析する必要があります。それができなければ、花火大会の花火と同じです。後に残るのは「燃えかす」だけ。花火の燃えかすは、皆さんのような心ある人たちが拾ってくれますが、実力テストの燃えかすはだれも拾ってくれませんからね。今日はテストについて、皆さんにもう一つメッセージを送ります。

皆さんは仲間の点数が気になっていませんか。自分とよく気が合う仲間の点数なら、特に知りたくなりますよね。気もちとしてはよくわかります。私も皆さんぐらいの年頃の時はそうでしたから。いや、私だけでなく、職員全員と保護者の皆さんも同じだと思いますよ。

人の点を知ることです。生まれるものは、一時的な「優越感」か「焦り」のどちらかです。「一時的な」という言葉をつけたのは、時間が経てば消えてしまうからです。

今は同じ立場の仲間だから比較したくなってしまうのだと私は思います。これから、進んでいく方向や目指す専門性が異なっていけば、周りと比較するのは意味がないことだと、人は自然にわかってくるのです。

比較をするなら、過去の自分としてみてもどうですか。現在仲の良い友達と、この先ずっと同じ人生を歩むわけではありません。自分とはこの先ずっと付き合っていないのですからね。

(七月二日 記)

